

# 119通報のかけかた



火事ですか？ 救急ですか？

救急です。

住所はどこですか？

浜松市〇〇区□□町△△番地です。

どうされましたか？

父親が胸の痛みを訴えて倒れました。

おいくつの方ですか？

〇〇歳です。

あなたの名前と連絡先を教えてください。

私の名前は浜松一郎です。電話番号は…。

備えあれば  
憂いなし!  
このページは  
保存版。



消防指令センター



119番へ通報する際、「気が動転して、何番へかけたらいいか、すぐに思い出せなかった」とか、「何をどう伝えればいいのかわからなかった」という人も多い。突然の出来事に、頭が真っ白になってしまう場合も多いようだ。そこで、もしものときにも、できるだけ早く、的確な通報ができるように利用していただきたいのが、このページ。日頃から目に付きやすい場所へ貼付したり、電話近くに保管したりして備えておくのがオススメです。

## 夜間や休日にケガや病気になったら

毎日夜間  
土曜午後

**浜松市夜間救急室**  
☎455-0099

中区伝馬町311-2  
(浜松市医師会館内)

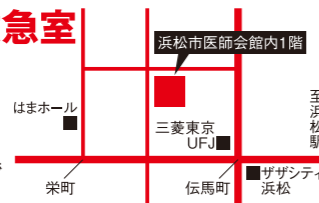
毎日夜間

午後8時～翌午前7時まで

土曜午後

午後2時～6時

(祝日と12月30日～翌1月3日の間の土曜を除く)



日曜・休日の  
日中

**休日在宅当番医**

下記によりご確認ください

- 当日の新聞
- 静岡県救急医療情報センター ☎0800-222-1199  
<http://www.qq.pref.shizuoka.jp/>

※いずれの場合も医療機関へ電話確認の上、受診ください。

受診する前に  
相談したいとき

**電話相談窓口**

- 静岡子ども救急相談(午後6時～翌午前8時)

局番なし #8000  
(プッシュ回線の固定電話、携帯電話)

または ☎054-247-9910

- 浜松市夜間救急室(午後8時～翌午前7時)

☎455-0099



浜松市内のAED設置数

**864**台

(平成23年9月現在)



エーイーディー

**AEDを使える安心  
高まる救命率!**

AEDは、事故や発作などで突然倒れ、心臓の機能を失っているとき、電気ショックを与えて心臓の動きを正常に戻す、いわば命綱ともいべき機器のこと。人は、心臓が停止してから1分経過するごとに救命率がおよそ10%ずつ低下するといわれ、救急車が現場に到着するまでの間にAEDの処置をすることで、命を救う確率を高めることができる。2004年からは医療従事者でない人でも、AEDを使用することができるようになったので、日頃から地域のAED保管場所をチェックし、自らも使用できるように、救命講習などに積極的に参加したいものです。

自分の周辺の  
AEDを調べる

**浜松AEDマップ**



市内のAED設置箇所は、「浜松AEDマップ」として一般公開されている。皆さんは自宅や職場近くの設置箇所をご存じ?



<http://gis.hamanako.jp/mp/aed/>

**58,938人**

(全国の救急隊員の数=平成22年4月1日  
平成22年総務省消防庁消防白書)

全国の救急隊員が浜松に集結  
第20回 全国救急隊員シンポジウム

日程/2月2日(木)・3日(金)

会場/アクトシティ

テーマ/“20年の歩みをこれからの救命の決意に!!” ~二十歳の誓いを浜松から~

全国の救急隊員などを対象に、救急業務に関する研究発表や最新の医学知識などを学ぶ場を設け、救急業務の充実と発展を目的とした、救急隊員のシンポジウムを浜松で開催。期間中各会場では、さまざまな報告や研究の発表が行われます。2012年は救急救命士制度が発足して20年。この節目の年に「さらなる救命率向上へ向けての決意」を全国に発信します。

救急隊員や救急医療に携わる医療関係者中心のシンポジウムですが、一般市民に向けた市民公開講座やパネル展示なども開かれます。当日、直接会場へお越しください。詳しくは、市ホームページ(トップ)をご覧ください。

【市民公開講座「命のバトン」をつなげよう】

大ホール 2日(木)午後0時20分~1時20分

■第1部「救える命 つながる命」 講師:川崎真弓さん(NPO法人「命のバトン」代表理事)

■第2部「心停止の予防と応急手当について」 講師:奥水健治さん(埼玉医科大学総合医療センター救急科(ER)教授)

■内容/ある日、突然たいせつな人を失う。これは特別なことでなく、誰にでも起こりうる事。しかし、「救急」の知識があると救える命もある。

「つながる命のためにできること」一緒に考えて見ませんか?

【パネル展示】

展示イベントホール 2日(木)午後1時~5時 3日(金)午前9時~午後3時

■救急救命士制度20年の歩みを振り返って ■浜松市制100周年

■問い合わせ先

浜松市消防局警防課 中区下池川町19-1 ☎475-7531

一人暮らし高齢者の味方  
緊急通報システムの貸与

端末のボタンを押すと緊急支援センターにつながり、相談や緊急要請ができるシステムを貸与しています。

■対象者/

●65歳以上の一人暮らしで、持病などにより健康上の不安があり、安否確認が必要な人。

●75歳以上の一人暮らしの人。

■費用/

●市民税課税世帯の人は月額1,000円

●市民税非課税世帯の人は無料

■申込先/

お近くの地域包括支援センターか在宅介護支援センターへ。

※このシステムは民間の緊急支援センターへの連絡になります。消防局救急へはつながりません。

**1,800**  
世帯 (利用者数)

**58,000**  
世帯 (対象世帯数)

■問い合わせ先 浜松市高齢者福祉課 中区元城町103-2 ☎457-2789

# TOPICS

浜松市で行われる  
救急救助関連の情報



知ってた? 「火の用心」生みの親  
本多重次と浜松の因縁

「火の用心」という言葉の起源は、浜松にあると言われていることをご存じだろうか。徳川家康公が浜松城主だったころ、家臣として仕えていた本多作左衛門重次という武将が、出陣先から妻宛てに「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」という手紙を送った。この内容は、「火の元に注意し、息子のお仙の世話や、畑作業を頼む」といった内容を、端的な文章にしたもの。ここから「火の用心」という言葉が一般化されたのではないかとされている。この手紙を書いた本多重次は、家康公の側室であるお万の方を、西区雄踏町の中村家住宅にかくまったとされる人物。浜松に縁の深い人物の言葉が、誰もが知る火災予防標語となっているのである。

